海ごみゼロにいがた大作戦(2021)

海ごみゼロ新潟プロジェクト実行委員会

BSN新潟放送

2021年度 成果

今期は実行委員会が各所の清掃活動約50箇所に参加し、それぞれのエリアの海洋ごみの状況や活動に伴う様々な問題を共有した。こうした連携の中で広がった団体や個人、企業とのともに活動し続けることがCFB活動の拡がりにつながると実感できた。大人数での活動が制限された中、J2リーグ・アルビレックス新潟や海の家と連携した活動では、普段海洋ごみ問題を意識しない層にも働き掛けることができた。にいがた総おどりでは世界大会優勝チームによる「海ごみゼロ隊」がごみ問題をダンスパフォーマンスで表現。祭りのオンライン配信は5万回以上の再生回数となった。また小中学生を対象に行ったビジネスを切り口に海の問題を考えるコンテストでは、海洋問題に対し普段活動しているこどもたちが多数参加。未来の熱源に成りうる原石に多く出会えた。

行動変容促進モデル

連携団体と実際に現場で活動することに注力。各地の問題を共有するとともに新しい団体や個人との出会いも生まれた。新たに高校や大学の委員会、サークルとの連携も始まった。

行動変容促進モデル

参加15,000人、観客20万人のダンスフェス（オンライン）と連携。過去最大規模となったフェスの中で、「海ごみゼロ隊」が演舞で海ごみ問題を訴えた。配信は5万回以上再生。

企業連携モデル

サッカーJリーグで屈指の動員数を誇るアルビレックス新潟と2年目の連携。内陸部にあるスタジアム周辺を会場に来場者に「陸」からごみを出さない意識の浸透を図った。

企業連携モデル

地元大学やベンチャー企業と共に、小中学生を対象にしたビジネスコンテストを実施。こどもらしい柔軟な発想と、海の課題を解決したいという熱い想いに審査員も感服の連続だった。

メディア露出

5/18 TV「スマイルクリーン」

10/27 TV放送「スポGOMI 甲子園新潟県大会」

1/25 TV「コラボ商品 海老味噌」

WEB「にいがた総おどり」

2021年度の課題とこれからの展望

先日清掃した砂浜にまたごみがあふれている。日課で繁華街のごみ拾いを行っているが毎朝新しいごみが生まれ、排水溝に吸い殻や食品の殻を捨てる人の姿を目にする。海洋ごみが自分たちの暮らしや健康に影響を与えることを他人事と見る人たちはまだ多く存在する。一方、連携する高校、大学からは海洋ごみがなぜ発生するのか出発点の調査や漂着物の最新実態をふまえて有効な対策をうちたいとの相談も来ている。プロジェクトの認知度を上げ、問題を意識していない層にも活動への理解を高めるとともに、また次世代を担うこどもたちへの啓発に力を入れ、ごみを出さない生活習慣の浸透によっても問題解決を目指したい。